



# 医療機関等と連携した 研修の充実①

## 千葉県教育委員会

### 基本情報

総人口・幼児 児童生徒人口	約627万人・729,168人
医療的ケア児数	246人/特別支援学校30校
医療的ケア看護 職員の雇用形態 配置人数	直接雇用（各学校に配置） 非常勤 126人 / 特別支援学校 30校

### 研修の概要

- 医療的ケア指導医・主治医が在籍している医療機関や特別支援学校と隣接している医療機関と連携し、研修を企画・実施
- 医療現場の医師や看護師が講師となり、モデル人形等を活用した実技研修や緊急時の対応方法を学ぶ研修を実施することにより、医療的ケア看護職員の知識・技術の向上および不安解消につなげる

### 研修実施の経緯

- 医療的ケア看護職員の経歴は様々であり、医療現場から一度離れていた者も存在
- 医療的ケア看護職員から実技や病棟見学に関する研修開催の要望があり、県から医療機関等へ相談・連携を開始した

### 研修の目的

- 成人や高齢者の現場経験のみなど、様々な経歴の医療的ケア看護職員が、学校において安全に医療的ケアを実施できるよう、病院の医師等による実技研修を実施することにより、医療現場の最新の情報や、緊急時対応等を学ぶ

### 連携した医療機関

- 千葉県千葉リハビリテーションセンター（千葉県医療的ケア児等支援センターを受託）
- 独立行政法人国立病院機構下志津病院

#### 連携する医療機関を選定した観点

- 医療的ケア指導医や主治医が複数名在籍している
- 特別支援学校と隣接している

### 対象者

※令和4年度実績

- 特別支援学校の医療的ケア看護職員（126人）
- ※126人のうち、65人は医師等から直接指導を受け、61人は講義資料および動画視聴により研修を受講

### プログラム内容の例

形式	内容	講師	時間
講義	●重症心身障害児のリハビリテーション ●重症心身障害児における人工呼吸療法	医師、理学療法士（PT）、臨床工学技士（ME）、医療機器メーカー担当者	2H
モデル人形等を使用した実技研修	●胃ろうボタン交換 ●気管カニューレ交換 他		2.5H
質疑・情報交換	質疑・情報交換		0.5H

（実施時期：8月頃）



写真：医師から指導を受け、胃ろうボタン交換の実技の演習

## 研修実施するまでの流れ

### 1. 研修テーマの相談・決定(県⇄医療機関)

研修日程の決定後、おおまかな研修テーマを医師と電話で相談し決定

(検討した研修テーマ例)

- 人工呼吸器の取扱い
- 緊急時対応としての気管カニューレの挿入や胃ろうボタンの挿入等

### 2. 医療的ケア看護職員へのアンケート(県)

研修テーマを踏まえたアンケート用紙を作成し、医療的ケア看護職員からの質問や学びたい事項を具体的に把握

(学びたい事項の例)

- 液体酸素を使用しながら学校生活を送る医療的ケア児が入学予定のため学習したい
- 排痰補助装置等を使用している児がいるため学習したい 等

### 3. 研修内容の相談・調整(県⇄医療機関)

アンケート結果を連携医療機関に共有し、研修内容を相談・調整

- 医師に加え、看護師・理学療法士(PT)・臨床工学技士(ME)等も打ち合わせに参加
- 医療的ケアの実施状況の変化に合わせて、研修で実演する医療機器(人工呼吸器や在宅酸素ポンペ)、参加するメーカー、講義内容等について調整を行う

### 4. 研修資料の作成(医療機関⇄県)

- 医療機関の医師から看護師・PT等に研修資料作成を依頼
  - 医療機関の医師から県に、医療機器メーカーを紹介
  - 県から医療機器メーカーに講義等を依頼
- (医療機器メーカーに講義等を依頼した医療機器の具体例)
- 液体酸素ポンペ、カフアシスト、人工呼吸器、気管カニューレ、注入で使用するチューブ等

## 研修を受講した医療的ケア看護職員の声

- 医療現場における医療的ケアの知識を得るとともに、モデル人形を使用して実技を実施でき、緊急時の対応をイメージしながら学ぶことができた
- 次年度入学予定の人工呼吸器使用の医療的ケア児への対応に多少不安を感じていたが、医師等からの実技研修や医療機器メーカーからの講義等により緊急時対応も含めて確認でき、不安解消につながった
- 校内の医療的ケア児の具体的な対応について、実技研修をしながら医師等に細かく質問・相談できた

## 連携した研修実施に関する教育委員会・連携医療機関の受けとめ

- 医療に関する専門知識が必要な場合の対応が難しかったが、医療機関と相談しやすい体制の構築につながった(教育委員会)
- 医療機関での対応を学校現場に共有することができた(医療機関)



# 医療機関等と連携した 研修の充実② 長野県教育委員会

## 基本情報

総人口・幼児 児童生徒人口	2,020,870人・ 269,109人
医療的ケア児数	176人 / 特別支援学校 17校
医療的ケア看護 職員の雇用形態 配置人数	直接雇用（各学校に配置） 常勤2人、非常勤 44.5人 / 特別支援学校 17校

## 研修の概要

- 県の重症心身障害児の療育の拠点であり医療的ケア児の主治医が在籍している医療機関と連携し、研修を企画・実施
- 病院の医師・看護師が講師となり、医療現場の最新の情報や緊急時対応等を学ぶ研修を実施するとともに、病棟の見学研修を実施することにより、医療的ケア看護職員の知識・技術の向上および不安解消につなげる

## 研修実施の経緯

- 医療的ケア看護職員から、「重度の障害のある医療的ケア児が入院している医療現場を見学してケアに関する知識や技術を学びたい」という要望があり、県から医療機関等へ相談・連携を開始した

## 研修の目的

成人や高齢者の現場経験のみなど、様々な経歴の医療的ケア看護職員に対し、以下の内容の研修を行い、学校において安全に医療的ケアを実施できるようにする

- ① 人工呼吸器を使用している医療的ケア児への対応
- ② 病院の医師・看護師による講義・実技指導において、医療現場の最新の情報や、緊急時対応等を学ぶ
- ③ 病棟の見学研修により、重症心身障害児に対するケアの最新の情報や医療的ケア児の入院生活を学ぶ

## 連携した医療機関

- 長野県立こども病院

### 連携する医療機関を選定した観点

- 県の重症心身障害児への療育の拠点で医療的ケア児の主治医が複数名在籍している
- 県の中心に所在しており研修受講者が移動しやすい

## 対象者

※①・②は令和4年度実績  
※③は令和元年度実績

- ① 人工呼吸器を使用している医療的ケア児への対応研修
  - 特別支援学校の医療的ケア看護職員(29人)・教職員(17人)
  - 市町村立小中学校の医療的ケア看護職員(2人)・教職員(2人)
- ② 病院の医師・看護師による講義・実技研修
  - 特別支援学校・市町村立小中学校の医療的ケア看護職員(17人)
- ③ 病棟の見学研修
  - 特別支援学校の医療的ケア看護職員(7人)

## プログラム内容の例

### ①人工呼吸器を使用している医療的ケア児への対応研修 (実施場所：長野県立こども病院会議室)

形式	内容	講師	時間
講義	●人工呼吸器について	医師	1H
講義・ 実技研修	●人工呼吸器に係る緊急時の対応・日常的な観察ポイント	看護師	1H
実践発表	●学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒への対応について	特別支援学校教諭	0.5H
講義・ 実技研修	●人工呼吸器の仕組み・取扱い・アラーム対応の基本	人工呼吸器メーカー担当者	1.5H
情報交換	●医療的ケア看護職員の情報交換		0.5H

(実施時期：6月頃)

### ②病院の医師・看護師による講義・実技研修 (実施場所：長野県総合教育センター)

形式	内容	講師	時間
講義・ 実技研修	●気管カニューレを装着した児の緊急時のケア(気管カニューレ再挿入のスキルトレーニング、アンビューバックによる用手換気のス��トレーニング、緊急時対応シミュレーション)	医師、 看護師	1H
情報交換	●医療的ケア看護職員の情報交換		1H

(実施時期：7月頃)

### ③病棟の見学研修 (実施場所：長野県立こども病院病棟)

形式	内容	講師	時間
見学研修	●筋緊張の強い児童生徒への援助方法、排痰の援助方法、発作時の対応、皮膚のケア、気管カニューレ内の吸引、経管栄養、手押しの注入等	医師、 看護師	5H

(実施時期：8月頃)

## 研修を実施するまでの流れ ※②病院の医師・看護師による講義・実技研修の流れ

### 1. 医療的ケア看護職員へのアンケート等(県)

前年度研修時の受講者アンケートや学校からの相談事項等から、医療的ケア看護職員が学びたい事項を具体的に把握  
(学びたい事項の例)

- 人工呼吸器を使用する医療的ケア児の増加を受け、人工呼吸器の取扱いを学習したい
- 新型コロナウイルス感染症への対応を学習したい 等

### 2. 研修テーマの決定(県)

医療的ケア看護職員の研修ニーズや、教育委員会として推進していくべき事項、研修内容等からテーマを決定  
(検討した研修テーマ例)

- 人工呼吸器を使用する医療的ケア児の緊急時の対応
- 感染症対応の基本
- 医療的ケア児支援センターの発足初年度の取組 等

### 3. 研修内容の相談・調整(県⇄医療機関)

実施したい研修テーマを医療機関の地域連携室と共有し、研修内容を相談・調整

- 県内の医療的ケアの状況から、人工呼吸器、気管切開を施した医療的ケア児の緊急時対応の研修の必要性が高いことなどを相談し、シミュレーション内容等について調整を行う

### 4. 研修資料の作成(医療機関)

医療機関の地域連携室から医師・看護師に研修資料作成を依頼

## 研修を受講した医療的ケア看護職員の声

- 「人工呼吸器を使用している医療的ケア児への対応研修」により、人工呼吸器の仕組み・取扱いを学び、緊急時の対応が理解でき不安解消につながった
- 「病院の医師・看護師による講義・実技研修」により、毎日のケアや緊急時の対応の見直しができ不安解消につながった
- 「病棟の見学研修」により、現在学校に通っている医療的ケア児が入院・ショートステイで利用していた病棟を見学でき、入院生活を理解できた。医療的ケア児の自立や成長の視点を意識するきっかけのひとつになった

## 連携した研修実施に関する教育委員会・連携医療機関の受けとめ

- 医療的ケア児の主治医が多数在籍する医療機関と相談しやすい体制の構築につながった(教育委員会)
- 医療的ケア看護職員から、医療的ケア児の学校での様子を聞き情報共有する機会になった。医療機関での対応を学校現場に共有することができた(医療機関)